

諸觸達扣

貳



諸觸



扣

第二冊

碧龜湖名碑

永永六年

第貳

諸觸達迴達扣

世正月

四卷武子海平

若殿様来二月四日

御書に云く海平の御書に云く

御書に云く

御書に云く

御書に云く

御書に云く

御書に云く

御書に云く

藏

四庫全書

今日

清兩殷極之

公方據西平既而後西平領西平之縣也

尸部
尸部

所製之海軍一
 等之少尉海軍
 中尉海軍中尉
 少尉海軍中尉
 少尉海軍中尉

丙午年七月廿三日
平一經日
臨升中藏

新舊金軍之遠近
平田伊子馬

長久保のふりかへし書

文

心算はゆきふりかへし
上へゆきふりかへし
方算はゆきふりかへし
心算はゆきふりかへし
方算はゆきふりかへし
心算はゆきふりかへし
方算はゆきふりかへし
心算はゆきふりかへし
方算はゆきふりかへし

三月二日

神尾

長久保

心算

方算

心算はゆきふりかへし

方算はゆきふりかへし

心算はゆきふりかへし

三月二日

神尾

卷之五

七言詩卷

卷之四

正月九日

卷八

神尾西村新保里心星曰市田段

此書中凡有
 一處下注
 其意以裁
 其意以裁

卷之四

二月十七日 張口方為九口亦日 雲鶴 雲鶴

旅平錄

新陽院根平 先生 西陽云 萬年身
 乙亥年十一月日 即通志萬年身

三
日
子
日

殿様

西河左衛門上三郎水戸親王出

御言葉承知申上候様方御達

御座り申上候様

上意思召下り申上候様

可上申上候様方御達

上二二日

野井半蔵

平田半蔵

早出半蔵

星田半蔵

新保半蔵

高木半蔵

西村半蔵

高川半蔵

神尾半蔵

沼田半蔵

多摩半蔵

二川半蔵

生田半蔵

寺尾半蔵

御言葉承知申上候様方御達

御言葉承知申上候様方御達

下りて多れあれいふも道程の別は能く喜ぶ所なり
申すにさるる事

正月

仲 次郎 三郎

右の所より日定毎一四回をとり
善悪様は途中に休合をとり

一 一 一 一

四回をとり
力あり

あきぬ山より其のふり

文恭院様御法事より其のふり

中へ先別るふり

但し所より其のふり

一 一 一 一

江戸へ先別るふり

七の所より其のふり

公儀より其のふり

一 一 一 一

お寺より其のふり

一 一 一 一

お寺より其のふり

クハハハ

道系
今中
松村

一、昭王百宝通——

了了

少康年

別成通

所方之極方

所代者

年日六

渡邊又

最合軍之極 西村幸一

多國軍之極 星島幸一

今日旅國之極

天祐隆極

所信歸江年頭之極

所方之極

所代者相之極

三月六日

渡邊又

昭王百宝通

五原
中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

中興縣

差圖は右に在る程外
所方へ極西陽海平と四月分右中
世居ヤ入口と

二月十三日

別紙通西陽海平と四月分右中
多ト同くあり西陽海平と四月分右中
以降の事とあり

二月十三日 神尾まはる

西村豊
新保孝
岡田良

外へ送るなり
西陽海平と四月分右中
以降の事とあり

二月十三日 西陽海平と四月分右中
以降の事とあり

西陽海平と四月分右中
以降の事とあり

水師方監御

右者要領院
西陽海平と四月分右中
以降の事とあり

西三四志
西陽海平と四月分右中
以降の事とあり

西陽海平と四月分右中
以降の事とあり

西陽海平と四月分右中
以降の事とあり

西陽海平と四月分右中
以降の事とあり

二月十三日

西陽海平と四月分右中
以降の事とあり

西陽海平と四月分右中
以降の事とあり

一 但付紙 方後 通 丁 市 動 向 諸 事 上 諸 事

一 依 見 市 有 諸 事 所 一
市 動 向 諸 事 上 諸 事 所 一
市 動 向 諸 事 上 諸 事 所 一

一 大 井 門 後 丁 市 動 向 諸 事 上 諸 事 所 一
市 動 向 諸 事 上 諸 事 所 一

一 但 付 紙 方 後 通 丁 市 動 向 諸 事 上 諸 事 所 一

一 市 一 通 丁 市 動 向 諸 事 上 諸 事 所 一
但 付 紙 方 後 通 丁 市 動 向 諸 事 上 諸 事 所 一

一 明 何 日

市 動 向 諸 事 上 諸 事 所 一

但 付 紙 方 後 通 丁 市 動 向 諸 事 上 諸 事 所 一

一 市 動 向 諸 事 上 諸 事 所 一

一 市 動 向 諸 事 上 諸 事 所 一

一 市 動 向 諸 事 上 諸 事 所 一

一 市 動 向 諸 事 上 諸 事 所 一

言式

姫君様は市傳者より中殿へ... 伝進式

但身紙は後通

殿様

姫君様は市傳者より中殿へ

若殿様は市傳者より中殿へ

若殿様は市傳者より中殿へ

若殿様は市傳者より中殿へ

若殿様は市傳者より中殿へ

若殿様は市傳者より中殿へ

若殿様は市傳者より中殿へ

殿様は市傳者より中殿へ

市傳者

市傳者は市傳者より中殿へ

市傳者は市傳者より中殿へ

市傳者は市傳者より中殿へ

市傳者は市傳者より中殿へ

市傳者は市傳者より中殿へ

市傳者は市傳者より中殿へ

市傳者は市傳者より中殿へ

市傳者は市傳者より中殿へ

才知云云由飲云云

作進式

得成其後

若被樣由事府云云

上使云云由例云云

一、御多勅御禮中多日使者云云

成云云上

御而殿樣云云

作進式

姫若樣云云由使者云云

由事云云

殿樣由初云

御多府云云由使者云云

作進式

一、

御而殿樣云云由使者云云

由事云云由使者云云

但付錢云云

二月

神尾市

以後市七日、由國云云

丁亥

壬午

山内式部卿

若殿様至所城歸時 所居以於多月
吉日休身人 所看口是日所
所後駕之於所中事
所事親之市所一内 所出使 所飛也
思云云 所事

山内

所方之條 所事 所後役中道通達
方五所事 所事

所事

所達所之條 所事 所通達 所事

所事

神尾 所事 西村 所事
所事 所事 所事

長安軍多舊之
如村多古之
新屋多古之

大

若殿様 西多房 京口 川原 坂下 河
上 河原 坂下 河
但 河原 坂下 河

沙井 寺 屋 本

坂 下 河 原 坂 下 河

才 河 坂 下 河 原 坂 下 河
行 河 坂 下 河 原 坂 下 河
山 河 坂 下 河 原 坂 下 河
山 河 坂 下 河 原 坂 下 河
山 河 坂 下 河 原 坂 下 河

山 河 坂 下 河 原 坂 下 河

こゝろ

まかり

法

心

心

心

心

心

心

心

心

心

心

心

心

通、便舟、水、通、前、津、法、及、品、入、後、出、
 一、方、或、修、八、前、分、流、事、爲、通、而、勢、馬、具、足、之、方、
 相、通、一、節、八、品、事、也、細、也、爲、形、出、以、爲、爲、之、入、但、
 亦、多、唐、已、分、爲、浦、實、清、黃、而、澄、文、而、來、之、差、矣、
 將、又、難、而、斗、一、一、爲、或、具、馬、之、切、入、通、市、臨、浦、決、
 以、爲、不、修、又、多、形、入、爲、爲、或、以、爲、身、而、形、外、并、一、
 卿、一、形、一、之、入、交、一、決、勿、論、或、具、馬、之、以、爲、形、或、
 形、多、入、修、一、爲、或、以、爲、爲、或、以、爲、爲、或、以、爲、爲、
 一、之、其、以、形、或、以、爲、多、形、一、在、等、以、爲、或、以、爲、
 一、以、爲、以、形、一、爲、或、有、一、之、方、或、以、爲、一、之、
 一、以、爲、以、形、一、爲、或、有、一、之、方、或、以、爲、一、之、

但脚氣亦多或為通氣似可治我病者未
悉一沛縣定所出產差固應市賣

一交代 長沙外 西の病物等、混雜布、
別々金入、家来、
海軍、
別々金入、家来、
海軍、

但し此の如くは、
後廻りなる事

[illegible]

有疾得平、此如如交成、於及、常送
流合、如、私如、相交、配方、如、漢、如、如、送、

沖雲帆と云ふは廻看月日如落如往廻を
来りたりと云ぬ教書附差物振存文云々

7

尚書卿之。其新由西。東海及伊勢。滋養流洛。
并布芳海甲州。依德人。有和唐通司。以信茂業。
第九十丁是。嘉祥三年。春。

修之道也。中。下。人。之。德。之。方。角。也。以
主。修。之。也。出。不。亡。法。之。有。自。教。一。經。其。六
中。事。悉。曰。一。也。此。六。種。於。成。身。之。五
以。是。又。中。方。所。用。所。法。長。德。既。之。道。通。今
法。之。收。其。二。者。亦。中。也。上。難。知。復。早
下。中。方。第。三。者。亦。得。入。之。故。中。公。以

一、本局於甲戌歲十一月十五日，在廣東省城，

一持病中、其後、大坂より、船中、難く、居、席、上、道
中、通、り、に、及、ぶ、事、も、や、事、を、言、ふ、に、通、り、に、及、ぶ、事、も、

上下、人数、を、計、る、に、及、ぶ、事、も、

右、通、り、に、及、ぶ、事、も、

所、代、
又、人、を、言、ふ、事、も、
一、言、ふ、事、も、
了、る、事、も、

其、後、

宋、使、院、様、平、面、意、以、相、當、の、方、月、来、于、二、日
十二、日、駒、込、に、於、台、様、平、面、意、以、相、當、の、方、
尚、付、の、意、も、有、り、以、来、丸、も、未、だ、以、相、當、
候、一、時、下、に、達、来、り、事、一、重、為、不、

二、三、日

申、文、に、通、り、に、及、ぶ、事、も、
事、一、言、ふ、事、も、

通、達、得、る、意、以、相、當、の、方、
上、に、様、意、以、相、當、の、方、

平島松江の屋敷に寄る。約一斗の米を以て徳を乞ふ
七日の夜

一徳を乞ふ松江の女。常夜に松江の徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

明日

若殿様。平島松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

と進出する。松江の女は徳を乞ふ。徳を乞ふ。徳を乞ふ

別處通うお達者な座にむす所
面々もてお達しなり。

倉田惣十郎
村城 孫六
道家 惣右
大橋 左
今中清平

新保事而友
有る事なり

若殿様御朱府へ書れり
御款書讀所は此也
御付書は通書なり

諸事より表向全外例お誂の事来書
お旨
御款書讀所は此也
御付書は通書なり

但麻上ノ看

二月廿二日

お達し通うことお達なり

殿様今日御朱
御款書讀所は此也
御付書は通書なり
お達し通うことお達なり
お達し通うことお達なり
お達し通うことお達なり

お達し通うことお達なり
お達し通うことお達なり

以廻達得...
上様...
殿様...
中...
...
...

新保半市伏

西村幸一助

殿様...
...
...

...

...
...
...

三行

平田何人

移尾

游食

西村

新保

長風

上
字

之

泥谷

在武海女常務小東四丁江東興人幸西早慶人

不食之而廣其反
也

子方

梁子金藏

張氏

骨

新得

壽

卷之四

年

道

47

返

蘇軾

右提角為四星

昭君保以東向兼松致招出

仁民以愛

三ノリ中

所見の慶式を傳へて中ノ所へて之を記す
榮務に於て

八世達海より先人 沖野方極意に傳へ
遠沙産より多岐に傳へ今日 主信に換法
用ひて清光 城より文 西九に傳へ
以て清用より家 伝へて 山崎事あり
此所伝へるより先人より傳へて 山崎事あり
此所伝へるより先人より傳へて 山崎事あり
此所伝へるより先人より傳へて 山崎事あり
此所伝へるより先人より傳へて 山崎事あり

三ノリ中

田中米馬

仲尾

新谷

新保

西村

長田

平田

吉本

漢名

榮務に於て

八世達海より先人 沖野方極意に傳へ
遠沙産より多岐に傳へ今日 主信に換法
用ひて清光 城より文 西九に傳へ
以て清用より家 伝へて 山崎事あり
此所伝へるより先人より傳へて 山崎事あり
此所伝へるより先人より傳へて 山崎事あり
此所伝へるより先人より傳へて 山崎事あり
此所伝へるより先人より傳へて 山崎事あり

以長連所...

...

...

...

...

...

...

通達...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

之德乃為井陽貞也
久傳漢帝拜授亭中
香面洪武

和村幸女

新錄

平

頤

[illegible]

賢

新

平内 龍虎堂
新居 山崎

廿九年九月

為村 呂國子
 平月

平

通達
 如生
 功下
 福以
 東
 後

[illegible]

己卯九月

助

竹尾

得

一

新保呈

平

高木

冬

个是海中之多心海方 上座益接嫌
能下如庄以我牙多悦不平之者快也
安座下如庄以我牙多悦不平之者快也
此公如看住山已来一秋其安座接嫌
金种个是海中之多心海方 上座益接嫌

所部之兵乃為世法所役下者為之
以方快之此所之長也此疾之長也

二月九日

渡邊又之

新田國田平田
里之 志本源谷快

以相連博之志本源谷快 上之極乃為世法
之長也此所之長也此疾之長也此疾之長也
此疾之長也此疾之長也此疾之長也此疾之長也
此疾之長也此疾之長也此疾之長也此疾之長也
此疾之長也此疾之長也此疾之長也此疾之長也

首之生知先之疾之長也此疾之長也此疾之長也
此疾之長也此疾之長也此疾之長也此疾之長也
此疾之長也此疾之長也此疾之長也此疾之長也

二月九日

新田平田

新田平田

里之 志本源谷快

首之生知先之疾之長也此疾之長也此疾之長也
此疾之長也此疾之長也此疾之長也此疾之長也
此疾之長也此疾之長也此疾之長也此疾之長也
此疾之長也此疾之長也此疾之長也此疾之長也

月夜
仲夏
來風
夜風
來風
夜風

席通

[illegible]

張常清

2

福至

山邊海邊の事

山好方御意

海好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山好方御意

山居手記

今

所

乃

所

所

所

所

所

所

所

所

所

所

所

所

所

所

所

所

百餘口

西村寺助

仲尼語云波造為國

平田 吉来 滋長秋

和青山 吉来 池端 也人

引波 通了 廣教了 相觸以上

寺一云

山及人通了 和青山 吉来 池端 也人 廣教了 相觸以上

八月

沖動延所

和青山 通了 廣教了 相觸以上

和青山 通了 廣教了 相觸以上

和青山 通了 廣教了 相觸以上

和青山 通了 廣教了 相觸以上

和青山 通了 廣教了 相觸以上

和青山 通了 廣教了 相觸以上

和青山 通了 廣教了 相觸以上

波造

吉来

道達摩の書

上は極意法也此は北周の書也

ふりて有るは之を南一と名けたり

華を以て悦ぶ事也十日は所詮の書也

此は金剛經の表と云ひ傳へたる

此は金剛經の表と云ひ傳へたる

此は金剛經の表と云ひ傳へたる

此は金剛經の表と云ひ傳へたる

此は金剛經の表と云ひ傳へたる

道達摩の書

此は金剛經の表と云ひ傳へたる

此は金剛經の表と云ひ傳へたる

此は金剛經の表と云ひ傳へたる

此は金剛經の表と云ひ傳へたる

力月廿

王面王

石龍吟集卷四 北山

傳

市沽流刀虎之剛柔漸趨古之意
竹石般樣 所愛下格之氣
竹石之氣主下一下之氣主下格之氣
竹石之氣主下一下之氣主下格之氣

此卷奉下

[illegible]

引成... 下... 卷

全... 卷

道... 卷... 卷

道... 卷... 卷

道... 卷... 卷

沈埋重抄の巻 恒在月今日

東松院抄

瑞瑞抄の巻 恒在月今日
以月恒 以故有月 恒在月今日
以月恒 以故有月 恒在月今日
以月恒 以故有月 恒在月今日

六月九日

平田河之馬

波還又之振

西村幸之親

通和月恒 恒在月今日
以月恒 以故有月 恒在月今日
以月恒 以故有月 恒在月今日
以月恒 以故有月 恒在月今日

通和月恒 恒在月今日
以月恒 以故有月 恒在月今日
以月恒 以故有月 恒在月今日
以月恒 以故有月 恒在月今日

徒藏後 恒在月今日

其月恒 恒在月今日
以月恒 以故有月 恒在月今日
以月恒 以故有月 恒在月今日
以月恒 以故有月 恒在月今日

六月

通達海客之方
上床蓋後種出
此在四角之懸枕平
若此處以新原之
此物江之望之
華君後改之
白雲新以感形以表
此門極大
若此處也
此處之
此處之
此處之

六日

西村孝一

右田平
十日
此處之

通達海客之方

上床蓋後種出
此在四角之懸枕平
若此處以新原之
此物江之望之
華君後改之
白雲新以感形以表
此門極大
若此處也
此處之
此處之
此處之

六月十日

西村孝一

右田平
十日
此處之

西村孝一

夜月飛白來名畫此獨知

後之藏此書者

浦明長渡來、異國松平、
返附波、有流子、下月通て、
心非常、一、日為、大流、心
筋、云、換て、波、小
右、左、云、山、橋、小

六月廿五日
通鑑公藏
楊明甫書

甲子年法 仙舟の来りては 天の宮に
建ちて 天の宮に 天の宮に 天の宮に
作れ 難平 舟の来りては 天の宮に
常々 天の宮に 舟の来りては 天の宮に
建ち

乙未年法 仙舟の来りては 天の宮に
建ち 天の宮に 天の宮に 天の宮に
作れ 難平 舟の来りては 天の宮に
常々 天の宮に 舟の来りては 天の宮に
建ち

丙申年法 仙舟の来りては 天の宮に
建ち 天の宮に 天の宮に 天の宮に
作れ 難平 舟の来りては 天の宮に
常々 天の宮に 舟の来りては 天の宮に
建ち

丁酉年法 仙舟の来りては 天の宮に
建ち 天の宮に 天の宮に 天の宮に
作れ 難平 舟の来りては 天の宮に
常々 天の宮に 舟の来りては 天の宮に
建ち

戊戌年法 仙舟の来りては 天の宮に
建ち 天の宮に 天の宮に 天の宮に
作れ 難平 舟の来りては 天の宮に
常々 天の宮に 舟の来りては 天の宮に
建ち

陽非彼
所而樂
所而樂
所而樂

六
月
廿
五

為序

此乃世所罕見之書也

七十八
 新
 年
 舊
 所
 中
 也

[illegible]

六十六

卷之四

楊便

楊便

楊便

朱月

楊便

楊便

楊便

楊便

楊便

楊便

楊便

楊便

楊便

二

富

近

村

大

道達行の御書

上へ御書付被下候所は其の如く申上り候所は

申下り候所は其の如く申上り候所は

申上り候所は其の如く申下り候所は

申下り候所は其の如く申上り候所は

申上り候所は其の如く申下り候所は

申下り候所は其の如く申上り候所は

申上り候所は其の如く申下り候所は

上り候所

申上り候所

道達行の御書

上へ御書付被下候所は其の如く申上り候所は

申下り候所

申上り候所

申上り候所

申下り候所

道達行の御書

上へ御書付被下候所は其の如く申上り候所は

申下り候所

行々仙々一々々々々々々々々々

ニニニニ

しんしんしんしんしんしん

果美院撰選云月今日事方方

多相信止業續々々々々

公候 仙々々々々々々々々

六六六六

別所々々々々々々々々々々

々々々々々

金馬馬馬

近海方々

村成孫云

上橋 光

六六六六

近海方々々々々

上々々々々々々々々々

近海方々

々々

主信々々々々

仙々々々々々

丁巳

聖書

在田下谷野里之邊茂所抄述人

以紙傳書
 冲方極意
 以安養下
 托以度身
 愛敬
 以安養下
 托以度身
 愛敬

上德人極心像中
 光義浣梯りりり
 笑合りりりり
 為美院極りりり
 也達りりりり

七月一日

落合軍萬

夜夢所不言之處也易於汝汝我

如天樣淨
忘今日常
解

七月

列城之志

西門外通遠門外

七月廿六

人橋宅
村廣絲六
土著方之
金為樂平

漢武皇帝

今日 冲西殿棟北院

公方樣為中久後夜及冲將物通以
此後 冲方樣中久後夜及冲將物通以

在通方... 街... 中

七月廿六

公方樣為中久後夜及冲將物通以

七月廿六

在通方...

漢武皇帝

西門外通遠門外

人橋宅

沖舟方柳葉枝嫌克昔無恨
 山芳梅如初好年芳如我
 來春更速也
 引之
 引之
 引之

蘇東坡

後漢王允

在夢下分十九日素ん所り為り升返成改人

公方操所不則有他故

上

非君。佛。乃。龍。神。提。今。明。乃。為。後。生。人。
行。近。佛。乃。提。有。者。七。一。也。乃。公。年。
長。生。乃。定。下。乃。中。日。



少々々々々々々々々々々々

芳嚴梅子方成度未及所願也

一

劉氏之墓

しるし下め 世にふらふ

七
此と何れも村を
此と南村にありて一と由に人
よりより述書なるもの信託及す
是より信託なるもの
七
七

可
此と信託なるもの何れも
大所所信託なるもの
七

一
此と信託なるもの何れも
一
此と信託なるもの何れも
七

七
此と信託なるもの何れも
七

七
此と信託なるもの何れも
七

31
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524

以爲之

所為多秘無所施然終非夜
 有餘沙之妙約之妙也
 冬之妙也
 事美上之妙也

下卷之五

七
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

公方様並所司諸公儀へ
 此紙へは、物置所より、
 至近より、心算帳中の事、
 便に、此紙へ、
 至近より、心算帳中の事、
 便に、此紙へ、

從法廷 美以斯也 志之 新貴可憐

一

一 傳中初事 一 古之月代仕の故の事

一 傳中初事 一 古之月代仕の故の事

一 傳中初事 一 古之月代仕の故の事

一 傳中初事 一 古之月代仕の故の事

一 傳中初事 一 古之月代仕の故の事

一 傳中初事 一 古之月代仕の故の事

一 傳中初事 一 古之月代仕の故の事

一 傳中初事 一 古之月代仕の故の事

一 傳中初事 一 古之月代仕の故の事

一 傳中初事 一 古之月代仕の故の事

夫...
七...

七...

公...
七...

若...
七...

其...
七...

但...
七...

七...

別...
七...

知...
七...

大...

杖...

金...

七...

公...
七...

有...
七...

作...
七...

最...
七...

七...

若...
七...

下...
七...

七月廿六

人橋 壹
付成條云
近有方連
金銀翠布

有父之三陽力來

地以

上之極方

聖君極長極中一之及貴人帝後

仙道且傳是事

仙道且傳是事

仙道且傳是事

仙道且傳是事

仙道且傳是事

仙道且傳是事

仙道且傳是事

仙道且傳是事

仙道且傳是事

東元四月

公方様御送月記所載事
の如様多謝未上江正四月日付
と銘し以て
中月山井原
中月山井原

八月二日

公方様御送月記所載事
の如様多謝未上江正四月日付
と銘し以て

八月二日

倉田雄平
上殿百

村城弥六

大橋 光

御送文
青木保馬

公方様御送月記所載事
の如様多謝未上江正四月日付
と銘し以て

公方様御送月記所載事
の如様多謝未上江正四月日付
と銘し以て

公方様御送月記所載事
の如様多謝未上江正四月日付
と銘し以て

新原

沖新原

四清中

辰分より進上夜棟道は日又少半時以
飛石分刻限付と事也此と事所所也

山邊通河を意山山方

山邊通河を意山山方
山邊通河を意山山方
山邊通河を意山山方
山邊通河を意山山方

沖新原山山方

山山方山山方

山山方山山方
山山方山山方
山山方山山方
山山方山山方

山山方

山山方

山山方

山山方

山山方

山山方

山山方

仁寺山公東九第所日退人

初書

昆龍門

今十三日書國東寺

天祐院樣

淨位牌江盆月乃

淨方樣以東云

受香初而中白宣中云云云云

七月十二日

日見龍門

昌壽院樣

淨前樣

大淨院樣

淨前樣

此處地中志以四柱方

之樣蓋以威德休吉樣而度子急修

淨代者初書書安云

成中書安云云云云云云云云

此校云云云云

八月十日

初書

初書

11

10

4

1

10

10

昔々古々古々古々
 臨々古々古々古々

七月

上 懷 公 知 余 常 為 振 文
身 列 成 一 年 後 公 故
懷 公 自 以 康 康 和 用 范 公 公 故
不 法 為 公 故 中
不 法 為 公 故
不 法 為 公 故

吉田

右
此後錄

何れもよき月夜に候へ

八月廿二日

別荘より一々外へ出でて来る

道中より一々下りて来る

一々来る

九月廿二日

十日廿二日

何れもよき月夜に候へ

別荘より一々外へ出でて来る

道中より一々下りて来る

一々来る

九月廿二日

十日廿二日

何れもよき月夜に候へ

別荘より一々外へ出でて来る

道中より一々下りて来る

一々来る

九月廿二日

十日廿二日

何れもよき月夜に候へ

別荘より一々外へ出でて来る

道中より一々下りて来る

一々来る

九月廿二日

十日廿二日

何れもよき月夜に候へ

別荘より一々外へ出でて来る

道中より一々下りて来る

半々若松沙多原下木切仕る事
此より同及口出所の致事有る事
連名筆下原下木切仕る事
三原の志事多量なる事
此より同及口出所の致事有る事
連名筆下原下木切仕る事

九ノ月

向付書

井端大助
元村孝典
久

石巻所へ新米の寄附状

此より同及口出所の致事有る事
連名筆下原下木切仕る事
三原の志事多量なる事
此より同及口出所の致事有る事
連名筆下原下木切仕る事

若松

[illegible]

中
氏
子
子
子

右通志龍
白素菜下以
以出久

酒升雅出酒板今官道遊云成文
世古一收凡所為穩便求一書
仙出山升後云一紅得此之

九

別成爲空物速爲空盡爲空消滅

九

近有方之通
付成孫六
大儒

後遺又之友
青木信子友

道日

慎徳院様御遺物

上使着當年御衣人

沖玉殿様御衣人 在馬場所

二和連 自落 主名 在馬場所

子連 下和落

カノ

近

徳徳院様御遺物

上使着當年御衣人

沖玉殿様御衣人 在馬場所

和連

カノ

沖玉殿様御衣人 上使着當年御衣人

和連 自落 主名 在馬場所

子連 下和落

カノ

一、馬場所 在馬場所 上使着當年御衣人

和連 自落 主名 在馬場所

組

少頃必已至矣

後

引成（在）於通有（單）而附（為）之
一（通）述（之）也

九（一）

[illegible]

九十九

力

蘇子集

進言勸人急進時利而不迫進者

在龍溪小東山葉下時別月夕多悲思

傳中初學他書一歲已能書中一
於建武中乃有明傳中書乃平日之
書乃其書也及向書一書乃其書

爲俄國作什麼事

明倫彙編

公侯

何出何為

何子平曰

修善無窮

丁巳

たりて

白所系

附

明十言

上使蜀一以妙法之骨為

此書不可不讀之方寸

陽

乃下

列帝之令

卷之五

余自癸卯年

上卷方寸七

人極

九

之採蓋所微嫌然感其意固所不
 平之者歟江之東原之成山之初
 之重之於世也其意之於世也其
 以安法此成修之志也金林以
 之世也其意之於世也其意之
 以世也其意之於世也其意之
 九日
 長回車一氣

王國維

此連字意不復有

[illegible]

乃

母烟一馬

清江集

上極方

媚态樣々爲世所明中九月復老矣

修通を所と稱合有るは

引續く修通の金百萬に

廿四の馬に渡り又

追ふべきものあり

修通の金百萬に渡り又

九

廿四

修通の金百萬に渡り又

廿四

廿四

元庚午年... 修... 自... 公... 修... 是... 中... 收... 安... 伊... 之...

貨... 修... 之... 乃... 諸... 公... 呂... 雜... 用... 城... 第...

余一廉親在右振合准按到
官便於未及出所使既終乃在
一國原之乃為就事追之也
有官收之等用一幸有也
又之出所使也有一
所之也

引成之役
公使之役

分第之役

九之役

海邊之役
下之役

金白銀平市
上者力之進
其成孫大
人穩 登

七年之役
少之役

極面 芝 葉 葉 葉

白柳原

外州に在る建物を一箇所ありて其の建

たは、其の

藤井氏の

其の建物は

藤井氏の

藤井氏の

藤井氏の

藤井氏の

近き所ありて其の建物は

新藤井氏の

新藤井氏の

新藤井氏の

新藤井氏の

新藤井氏の

新藤井氏の

新藤井氏の

新藤井氏の

新藤井氏の

新藤井氏の

新藤井氏の

新藤井氏の

下

月日

...

近年...

...

...

...

...

...

...

[illegible]

在之仕者一萬分皆能解
 之勤釋之馬之市非者
 自費行也

[illegible]

[illegible]

一長柄傘に成る者無きものなり。此の
陰持として、其の柄を腰に、其の傘
を手に、歩むと云ふは、其の意を成り
たり。其の意を成るものなり。其の意を
成るものなり。其の意を成るものなり。

一馬持て、
 當時、
 車、
 方、
 甲、
 紫、
 櫛、

事

從淨土出。流傳一版。其書。乃大元東
坡志。其書之體。用宋初舊本。其書并
上朱門。以水尾。前建網。後多。其板通
船。其板。故是。其書。一事。其書。
路。其書。其書。其書。其書。
其板。其書。其書。其書。

吾人皆爲不義而爭一毫之法
 相與爭利自慙之仁者皆一故使利
 治身中平法中切爲其心也
 一

有山有水有樹有石有松有竹
有花有草有鳥有獸有蟲有魚

九

汝身之風立山時長押板月汗風乾向流
 但取兼休於我未即一以感教四多つ
 一二月内以爲持成收云一極明
 雲の事一方向へ向ふ一山月と著
 一物有一一く速に此一毛は落頭
 一収得一一法一系一也補教一二月
 無意云一久多一極法
 修為

在江廣南之北極山

九

乃其遠近之...

乃其遠近之...

金剛經本中
上卷方進
付成錄六
大德 年

創...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

月より移りて

此の頃迄は

口振りの移りて

此の頃迄は

口より移りて

此の頃迄は

此の頃迄は

馬の脚

此の頃迄は

此の頃迄は

此の頃迄は

此の頃迄は

此の頃迄は

此の頃迄は

此の頃迄は

此の頃迄は

此の頃迄は

此の頃迄は

長江の東

小島

中島

長江の西

小島

中島

長江の東

小島

中島

長江の西

長江の東

中島

長江の西

中島

長江の東

中島

長江の西

小島

長江の東

中島

長江の西

中島

長江の東

中島

長江の西

中島

7

九

地衣子

明書

一書以有鑒乎。手記藏書之數曰：金
文、日、夜、同、暑、冬、已、常、未、入、事、中、長
兼、之、於、其、以、來、又、出、皮、心、有、贈、手、跟、延、有
六、八、九、入、事、於、乃、以、事。

一、江戶維新以來、廉之の長山、
他日席中、千外大、
此乃、良藩、
廉も、西子、人未止、
以、及、
是、

一 此信猶在兼家... 此信ハ自體ハ取
りて... 子情の... 一

別成... 此書... 富々方... 取
中... 文... 入... 見... 氣
方... 宜... 依... 事

四廣武重信
四廣武重信
四廣武重信
四廣武重信
四廣武重信

即今... 村... 食... 食... 飯... 自... 兼... 未... 原... 亦... 然... 接
以... 接... 亦... 然... 接... 以... 接... 亦... 然... 接...
之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
得... 有... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
足... 其... 余... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
ハ... 義... 藏... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
陣... 將... 成... 少... 清... 之... 之... 之... 之... 之...
ヤ... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
及... 有... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

十月廿七日

「市」の字は通多の字に似て

金田平年

上原万一

村成孫六

大橋 登

十川 芳

海老又三

石井長年

「市」の字は通多の字に似て

金田平年

市井長年

市井長年

市井長年

市井長年

市井長年

市井長年

市井長年

市井長年

市井長年

市井長年

市井長年

增補系年

石

十一

十一

為井心之

追々如く憂ふより遠く我よりあはれ

一、
義
臨
義
義
義

[illegible]

十アノナ

金瓶梅

正徳九年

村城孫六

一樓

波過又之反

長安吳伯玉書

引成五卷

王

張氏

[illegible]

子

方之五痛 此方之五痛 中無痛者

此乃有佛以心為本。即入迷途。

山陰縣志

年一萬二千五百餘人

和歌の心
万の心
下りて来る

所々
中
京
文

十

增補卷之五

右金張志字部出判在部來張并文及度之
文字金張草字部出判部來張志字部來張大
通則臨止一方為其月也門張一紙云今年
相續以去之人川張錢多有一人川張
九一美於又來吳十月之是云云云云無害
乘休事先進言相續以去相續以去期自今

臨川縣志卷之八
地理志
八

十月

行紙之儀 公儀に
下向指し上

十

引紙 卷八 通志 卷八 通志 卷八 通志

十月

長
明
子
公

石我通

東山寺下の人

少子馬

後を多

高年

り

力

何日能様

三少

小

ん

御

以

兼

通

白

控

乃

十一

石

今一子其地其後必死

如(四)為多一十

引(四)也長

引(四)也長

一十

引(四)也長

一十

一十

引(四)也長

引(四)也長

公方樣引(四)也長

引(四)也長

遠(四)也長

一十

一十

引(四)也長

引(四)也長

十一

十一

金剛經
上卷方寸
村城縣六
大橋

道生月三

[illegible]

按見...

十...

...

今日...

...

...

...

...

十月...

...

...

...

...

...

...

...

...

四顧使子雲公海小私素無私邪之望
夫又當重之於什先月之有福非徒使
此有日而重之於什先月之有福非徒使
此有日而重之於什先月之有福非徒使
此有日而重之於什先月之有福非徒使
此有日而重之於什先月之有福非徒使

十二月四日

日北都門

任病而不死其時人也

明中

之使也其時人不老於此之時也

十二月四日

列成之也其時人不老於此之時也

而之也其時人不老於此之時也

十二月四日

日北都門

近日

公方操

將軍

官下都門

上使

上使殿様相成り候に在り候事有之

候所

但

御面殿様へ 上使の方兼へ

為候事候に在り候事有之

上使殿様相成り候に在り候事有之

上使殿様相成り候に在り候事有之

上使殿様相成り候に在り候事有之

上使殿様相成り候に在り候事有之

但

上使殿様相成り候に在り候事有之

上使殿様相成り候に在り候事有之

上使殿様相成り候に在り候事有之

上使殿様相成り候に在り候事有之

上使殿様相成り候に在り候事有之

上使殿様相成り候に在り候事有之

上使殿様相成り候に在り候事有之

上使殿様相成り候に在り候事有之

上使殿様相成り候に在り候事有之

12

上使

香江

十

上使^ノ中^ノ少^シ佐^ヲ由^リ一^ニノ^ヲ進^ス方^ニ
爲^ル一^ニ乃^チ一^ニ佐^ヲ進^ス一^ニ乃^チ一^ニ爲^ル

十

明

上使節之少頃方集於建寧

蘇不才志子之付與也。

三ノ中

列御寇之書述者之書心附

西

李

名
自
身
之
人

明廣武重校

今日

評西廠樣式

公方操为威善以流及霜服也

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

通達方

法より之を極成心條に於て一は
何れより之を極成心條に於て一は
善道に於て之を極成心條に於て一は
之を極成心條に於て一は

十下五下

少相一馬

之極成心條に於て一は

道達得之を極成心條に於て一は

之極成心條に於て一は

之極成心條に於て一は

之極成心條に於て一は

之極成心條に於て一は

之極成心條に於て一は

之極成心條に於て一は

之極成心條に於て一は

之極成心條に於て一は

之極成心條に於て一は

之極成心條に於て一は

之極成心條に於て一は

十下五下

日以能

竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ

竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ

竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ

竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ

竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ
 竹も成程の枝のふたつ

少博人年

三
外卿之學一系是為一系

三
三
三

松平出書者使滿洲之書家

四
四
四

三
三
三

三
三
三

三
三
三

三
三
三

三
三
三

三
三
三

三
三
三

三
三
三

長
目
人



向柳原
御廣敷

永六年
第方備
花迎達
出帳

丹
十二月

文以時
書

三

多十月在母身

仲夏逢

清主使以乃有清國權在現前
 屬駒去子年不來居○此以有餘
 收以乃成振未又所年限年而安
 考及 公道法 修治之四有餘
 格之四主使以乃有修文政不
 己年之六十年之百書上之深以有
 之使以乃之九乃之在乃有

少紙被傳之次、封馬之被覆、
勿違來問、亦意有以所居、向者醫
進、男、女、少、婦、之、出、者、一、夜、
以、利、成、爲、其、公、來、起、角、餘、時、非
常、之、入、出、居、此、爲、打、續、文、以、
此、之、取、以、爲、人、其、之、上、年、以、
是、海、兵、私、殺、殺、通、船、身、之、
以、爲、海、兵、用、書、之、少、被、是、海、
兵、身、之、必、有、以、指、支、脫、以、
此、以、爲、氏、以、指、自、來、以、以、
中、一、組、之、以、及、以、
公、智、之、以、以、
押、後、強、以、以、
今、般、控

公事も新刊の便所筋に

修書有る月々修書有る

限中と坐して数世年々来りて

近き年々自今と内外と深き

田苗使の如く成りて

法性寺と云ふ

神祇并法向の法性寺は使有る年々

修書有る月々修書有る

修書有る月々修書有る

修書有る月々修書有る

修書有る月々修書有る

修書有る月々修書有る

修書有る月々修書有る

修書有る月々修書有る

進少壯之志公出處為公知乃青溪
至及吾知進道海之志自出仙林
如斯之重公之

十一月

一石月向後附而後致來之進以

定法成公

衣之通雲之氣必得之志以進
儀少故可出於中矣

十月廿七日

年歲中

少壯之志

永隆德之志

本年之志

早觀之志

以而為之

一 清初之書

清初之書一書以作者之姓名為目

以有題名之書一書以姓氏為目

以進格別重以姓氏一書以姓氏為目

以進格別重以姓氏一書以姓氏為目

一 清初之書

清初之書一書以作者之姓名為目

以有題名之書一書以姓氏為目

一 清初之書

清初之書一書以作者之姓名為目

以有題名之書一書以姓氏為目

一 清初之書

清初之書一書以作者之姓名為目

以有題名之書一書以姓氏為目

一
此後乃成法成者乃為之志也
法者乃一乃方一使四年回一乃法
代者乃一乃方一乃方一乃方一

一
沖為一乃近一乃近一乃近一乃近一

一
一乃方一乃方一乃方一乃方一乃方一

一
乃方一乃方一乃方一乃方一乃方一

一
一乃方一乃方一乃方一乃方一乃方一

一
一乃方一乃方一乃方一乃方一乃方一

一
一乃方一乃方一乃方一乃方一乃方一

一
一乃方一乃方一乃方一乃方一乃方一

一
一乃方一乃方一乃方一乃方一乃方一

一
一乃方一乃方一乃方一乃方一乃方一

一
一乃方一乃方一乃方一乃方一乃方一

一
一乃方一乃方一乃方一乃方一乃方一

黃沙如彼一車

一 此書圖法如彼方一書教之奉月錄

乃其進書中一

一 沙長山身門花通身衣道衣

一 少人投以沙衣中一

一 半頭沙衣通身是沙衣衣衣衣

沙衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣衣

衣衣衣衣衣衣衣衣

一 沙衣衣衣衣衣衣衣衣

一 用衣衣衣衣衣衣衣衣

一 沙衣衣衣衣衣衣衣衣

一 儀中衣衣衣衣衣衣衣

一 沙衣衣衣衣衣衣衣衣

一 沙衣衣衣衣衣衣衣衣

大勢、極少、依時宜、一、年、方、有、一、

以、年、一、

一、洋、人、名、按、方、法、有、一、以、年、一、年、

又、一、以、時、以、年、生、於、成、一、年、村、別、成、

以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、

於、又、一、年、一、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、

意、一、年、一、年、一、年、一、年、一、年、一、年、

一、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、

一、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、

一、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、

一、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、

一、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、

一、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、

一、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、以、湯、漢、一、、

之

山通海之台所及方

上之極蓋清城雖能之故其山曰松

牙也其山曰松

對馬島松山松之山松之山松之山

山松之山松之山松之山松之山

山松之山松之山松之山松之山

其山松之山松之山松之山松之山

山松之山松之山松之山松之山

其山松之山松之山松之山松之山

通松之山松之山松之山松之山

其山松之山松之山松之山松之山

既山松之山松之山松之山松之山

四以爲新之故才一胡能之山江美志
素分 公物之出款之故程之端合
二押獨之出當出之痛然思古之
今叙於 公迎之各別之四條物之
何物之出之身之在之程之出之當之
事之已年之出之年之有之出之即之際
散之出之出之出之出之出之出之
連之出之出之 清城之出之出之
四使去平之出之出之出之出之
首 公迎之出之出之出之出之
也之出之出之出之出之出之出之
思古之出之出之出之出之出之
也之出之出之出之出之出之出之
清之出之出之出之出之出之出之

多難と云ふは乃て得るものなり
山は活きなりと云ふは乃て山は活きなり
山は活きなりと云ふは乃て山は活きなり

十二月二日 渡邊又三

丹羽一馬
有本居
落合軍
星出求馬
平田伊
日比赤門
菅野
沼谷九

山は活きなりと云ふは乃て山は活きなり
山は活きなりと云ふは乃て山は活きなり
山は活きなりと云ふは乃て山は活きなり

山は活きなりと云ふは乃て山は活きなり

上は活きなりと云ふは乃て山は活きなり
別紙所代書初より山は活きなり
山は活きなりと云ふは乃て山は活きなり

三月廿三日 渡邊又三

丹羽一馬
前合軍主事
早出求馬
見此 嘉門

清代書初集

新保少十郎

今日日於國泰寺

天祐院保清院牌一日威音菩薩
清方之福山寺清代書初集
其後之寺書之

十二月廿一日 新保少十郎

昌壽院
清方之福山寺
清方之福山寺
清方之福山寺
清方之福山寺

心四邊乃其口以反方
上之採方益濟機機社多也其出就
東止以口乃其口以反方
臨事其方機私以明習者其口以反方
公私其口以反方其口以反方
其口以反方其口以反方
其口以反方其口以反方
其口以反方其口以反方

六月廿日 新保中郎

高木一馬次
高木茂茂次
平田伊之馬次
星加南馬次
日比嘉門次
菅野政次
湯谷九郎次

心也通得乎之曰也乃

上之操方益沛操練純熟誠可升官

其進收其平之各所無也安原由初任

下級防軍之事得之秘之秘之通之通之

之是仕之得也一公秘之秘之得之秘之

甘得之全神也服之之也之也之也之也

先而而之之也之也之也之也之也之也

之也之也之也之也之也之也之也之也

下而之也

甲子

通之入之

連名

書取

清里探りし西附金に在る有之者

清里探りし西附金に在る有之者

今更に玉清氣毒思ふ所なり

公勢の没候に用途甚多に欠程に端

合三月名の外右四年限中工殿又四人

教習有暇は進久松山頼思ふに等し

振表より西附金に在る有之者

より

清里探りし西附金に在る有之者

清里探りし西附金に在る有之者

以て以て書取得るなり

右口演書又寅丑月廿日新保屋早田作左衛門持春
有之同其三日新保屋早田作左衛門持春
其如早田

口演

本日以後、
中張、五口、
華山、四口、

[illegible]

此非常四子商之故也
 此非常四子商之故也
 此非常四子商之故也

對馬守保去壬午年分今年間松別之町省
昭西銀難口不自由故遊以就之口内即有老
口黃溪口口口口口口口口口口口口口口口口

置日人三城大田省略に進兵四郡 思ふの
以候後之ハ

清前様より少少存九島自由也と成致有
四年限中四郡より四小姓以并少少六人自
致人四城より成致有極限中他言はれ又
其四方何角より四郡合置致有極限中
極巨細

清前様より四郡より成致有極限中
前様より成致有極限中
其四方何角より四郡合置致有極限中

其四方何角より四郡合置致有極限中
俄より陽合致有極限中
其四方何角より四郡合置致有極限中
其四方何角より四郡合置致有極限中

表方より口申渡りてはるるお願事なり

お成事なり口申渡り

知文に給ふ物に口申渡りてはるるお願事なり口申渡り
お成事なり口申渡りてはるるお願事なり口申渡り
お成事なり口申渡りてはるるお願事なり口申渡り
お成事なり口申渡りてはるるお願事なり口申渡り
お成事なり口申渡りてはるるお願事なり口申渡り

此の書は新保及ふ早田成りてはるるお願事なり口申渡り
お成事なり口申渡りてはるるお願事なり口申渡り
お成事なり口申渡りてはるるお願事なり口申渡り
お成事なり口申渡りてはるるお願事なり口申渡り
お成事なり口申渡りてはるるお願事なり口申渡り

口申渡りてはるるお願事なり口申渡り

上極意に口申渡りてはるるお願事なり口申渡り

對馬より朝鮮信使來りてはるるお願事なり口申渡り

付口申渡りてはるるお願事なり口申渡り

思古儀之口申渡りてはるるお願事なり口申渡り

上意に口申渡りてはるるお願事なり口申渡り

作口申渡りてはるるお願事なり口申渡り

新保小十郎
九月廿二日
山邊屋下新下口上

神尾中左衛門
高木左衛門
長谷川勘平
西村幸三郎
平田綱之助
星出求馬
沖空郎
浩谷九多高

山邊屋下新下口上
右六六月廿九日
新保小十郎
城多藏
右方山
中島
山邊屋下新下口上
新保小十郎

以道達不得其意不所政方

上之極處所感雖然必多生此同好也既下
平之各懷所安康之必多勞務珍重
車馬之行必多去之各懷所安中
之各懷所安中余亦以事而致
之各懷所安中必多生此同好也
此五侯之貴人也

四十五

新條半郎

各人

以道達不得其意不所政方

上之極處所感雖然必多生此同好也
身也既下平之各懷所安康之必多勞務珍重
車馬之行必多去之各懷所安中

傳誥中云我多士在位我政未定
金穰穰之云我出言無不實之云先王
之志新之云我之德子之德教之
而一以方教之云一以方教之

中一五

山田新十郎

各款

以迴達得之云云及方
上之極蓋序微廉能成或云云同統
其也後以早之各款山田新十郎
其也後以早之各款山田新十郎
役也免於國之山田新十郎
作付以云國人江戶者近志賀品次郎
兼勅其作付以早之各款山田新十郎
以云云同統
其也後以早之各款山田新十郎

五月廿三日

七月

新保少郎

以廻達得の意に侍方

上之方益々様嫌此の趣に在るは思へず

別歩出代秀助を以て度々様へ申上

申上候事話早し以廻技を多し上

八月

新保少郎

各様

今十三日於國泰寺

天祐院様御位牌金牙座

歩方へ候事申上御代香和申上候事

候事申上

七月十三日

山田新太郎

梅田

昌壽院様

御前標

大樹更極

高士奇松

出者何

道遠乃之佛好乃

上杯蓋作鐵嘴狀底中注以自然水為佳

陳之寶

對馬外傳 卷之八 年辰 訪 諸 諸 諸

附錄卷五 文獻

朝陽
作紙

成學後以親字爲法

高村廣武公修中子景托

思成成學

乃之費此法不為早

也。而。其。方。極。其。序。則。其。度。之。大。

十。九。日。

新。任。平。郎。

道。遠。為。之。先。以。師。而。為。

其。程。之。始。極。其。度。之。大。而。其。序。之。大。

其。程。之。始。極。其。度。之。大。而。其。序。之。大。

其。程。之。始。極。其。度。之。大。而。其。序。之。大。

其。程。之。始。極。其。度。之。大。而。其。序。之。大。

其。程。之。始。極。其。度。之。大。而。其。序。之。大。

其。程。之。始。極。其。度。之。大。而。其。序。之。大。

其。程。之。始。極。其。度。之。大。而。其。序。之。大。

新。任。平。郎。

其。程。之。始。極。其。度。之。大。而。其。序。之。大。

其。程。之。始。極。其。度。之。大。而。其。序。之。大。

其。程。之。始。極。其。度。之。大。而。其。序。之。大。

其。程。之。始。極。其。度。之。大。而。其。序。之。大。

殷樣 於氏樣 於定樣 南宮母方

中祖母 中孫 中為商 中為本 中為其 中為

後卒日 為請 慈芳隆樣 崇母

一 中孫母 中為卒日 中為本 中為其 中為

為請 中為三 中為本 中為其 中為其 中為

請 中為本 中為其 中為其 中為其

一 慈芳隆樣 中為 中為其 中為其 中為其

中為其 中為其 中為其 中為其 中為其

中為其 中為其 中為其 中為其 中為其

中為其 中為其 中為其 中為其 中為其

中為其 中為其 中為其 中為其 中為其

中為其 中為其 中為其 中為其 中為其

中為其 中為其 中為其 中為其 中為其

中為其 中為其 中為其 中為其 中為其

中為其 中為其 中為其 中為其 中為其

中為其 中為其 中為其 中為其 中為其

中刻通志之方為要事

殿樣

慈苦院樣

於氏樣

於定樣
出
市市同
市市同

市市樣

寬
市市同

市市同

市市同

市市同

市市同

市市同

市市同

市市同

市市同

市市同

市市同

上之極品而接續能成之此口統也
各段以出安原之製法之如之
後之新及先月之方接續云
今之天下無所不知之法重身難者其公
金之全體早建之凡為聽可也若文
情是如三衣之少如之法甚之江所法之如
也國之沙志之接續亦可得中一安原之
也其持之有也其之少如之法甚之江所
之少如之法甚之江所

新保山十師

新保十部

聖子今欲分於國泰寺心操院

位牌并墓所石

宋封馬子悅

得亦錄之而後者必急度私念相親

長服早立

七月十日

大田作支

安政五年

（紅印）

對馬守松浦為長本少中納言
七年有暇方以是事為煩
信事之廣人言以廣之也
入於海而後出也
其公事之難也
入於海而後出也
其公事之難也

少事也
其公事之難也
入於海而後出也
其公事之難也
入於海而後出也
其公事之難也
入於海而後出也
其公事之難也
入於海而後出也
其公事之難也

以爲事畢

家數之少似以減之爲便也

分一之也

所收之數以爲之

宜以爲之

二月

生爲事畢

生爲事畢

之爲事畢

之爲事畢

之爲事畢

之爲事畢

之爲事畢

之爲事畢

二月

之爲事畢

主事卿下り

御事

金部

少卿及卿等御事
古より御事
御事
御事

少卿及卿等御事
御事

左少卿等御事
御事

北徳院様
御事
御事
御事

佛法事四為目三法金滿中法祇林等

佛事

佛法事中

佛代秀乃通

殿樣 佛代秀

善殿樣 佛代秀

佛代秀

佛代秀

佛代秀

佛代秀

佛代秀

佛代秀

佛代秀

佛代秀

佛代秀

佛代秀

佛代秀

佛代秀

佛代秀

長裕

依須伊織

依須馬助

山崎東介

平田俊盛

足羽平盛

平田俊盛

足羽平盛

足羽平盛

足羽平盛

足羽平盛

足羽平盛

足羽平盛

足羽平盛

足羽平盛

但所法之書附之於此在事

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

一 所法中之西法平滿之存統系

龍定標

清香真氣自是

但何至長日錄係白年卷振

所書真氣自是

估須伊織

曰云云

估須伊織

曰云云

估須伊織

曰云云

估須伊織

但何至長日錄係白年卷振

右子冠身得于意相雲一以所云云云云云

六月吉日

估須伊織

估須伊織

估須伊織

估須伊織

估須伊織

此書乃入藏云云云云云云

清家中不西方

三陽形中不西方

金之山刻城月之柳之山河方之
新成身四增城之山心胆之南时
山子深孔者山之山之山之山之
山免角之山之山之山之山之
山文之山之山之山之山之
山之山之山之山之山之
山之山之山之山之山之
山之山之山之山之山之

枯勅者、以所記之月、以御書而送
 御願、至日就王と云、雖あり、土佐方は持
 米代、是テ月々仕向金紀来り、貴人等其子
 尚多、世目付ふる者、深きこと、山家申下
 貴人の女、終合あるや、聊あり、未六月
 分能く、是より先、山増茂、亦以控長、山増茂
 下下り、名保、山時、伊保、山辨、其世と氣

中々之を以て是より一歩も進
みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる

上之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる

中々之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる

中々之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる

中々之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる
を以て之を以て是より一歩も
進みしむるは其の意に非ざる

上極至極歸於無爲而自化

得此安可也血氣之

於食積以儀生利是廣者於今日以飛

世傳周子移之於下管寧在位一月於此移之於下

出師表 卷之六 竹園 卷之六 出師表 卷之六

第一要法也。此法之妙。在於其
 後。多下。四。一。此。方。指。人。以。席。一。列。而。近。我。之。身。

五

十二月廿一日

金瓶梅

次子

王野隱書

日比為秋

卷之五

古風自舊

音同也

陽平合水多賴

則爲此作

東坡先生集

望遠乃望之何如

上之極盡其妙處一也此乃物之極其妙也

其為之妙也

此乃物之極其妙也

一也此乃物之極其妙也

此乃物之極其妙也

此乃物之極其妙也

此乃物之極其妙也

三

金

此乃物之極其妙也

此乃物之極其妙也

此乃物之極其妙也

此乃物之極其妙也

此乃物之極其妙也

此乃物之極其妙也

此乃物之極其妙也

[illegible]

七
松竹有竹の

本稿
重訂
卷之四
古蹟
角次
之
古蹟
之
部
次

海分龍虎山
蘇井位更改
多改兵改改

八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

父又二書年

少長乃一也

上ノ作意は、
 方々、
 善言、
 竹、
 上ノ作意は、
 方々、
 善言、
 竹、

金幼學子

十月

卷之六

神功

海峽

[illegible]

友夢所見

一色生海老と云汁好方

上は味中並沙撈越味なり成りて是れ上忍旨味
なり忍旨味なりは新味なり原より和江より成り
此より移りては遠く西國に傳へられ
何れも味中並格なり是れより少しなりは味中
なり是れより少しなりは味中なり是れより少し
なり是れより少しなりは味中なり是れより少し
なり是れより少しなりは味中なり是れより少し

十二月廿日

沖次多 云云

菅野 云云

湯谷 云云

湯谷 云云

信如堂十郎

上は味中並格なり

上は味中並格なり是れより少しなりは味中なり

上は味中並格なり是れより少しなりは味中なり

上は味中並格なり是れより少しなりは味中なり

上は味中並格なり是れより少しなりは味中なり

上は味中並格なり是れより少しなりは味中なり

上は味中並格なり是れより少しなりは味中なり

信如堂十郎

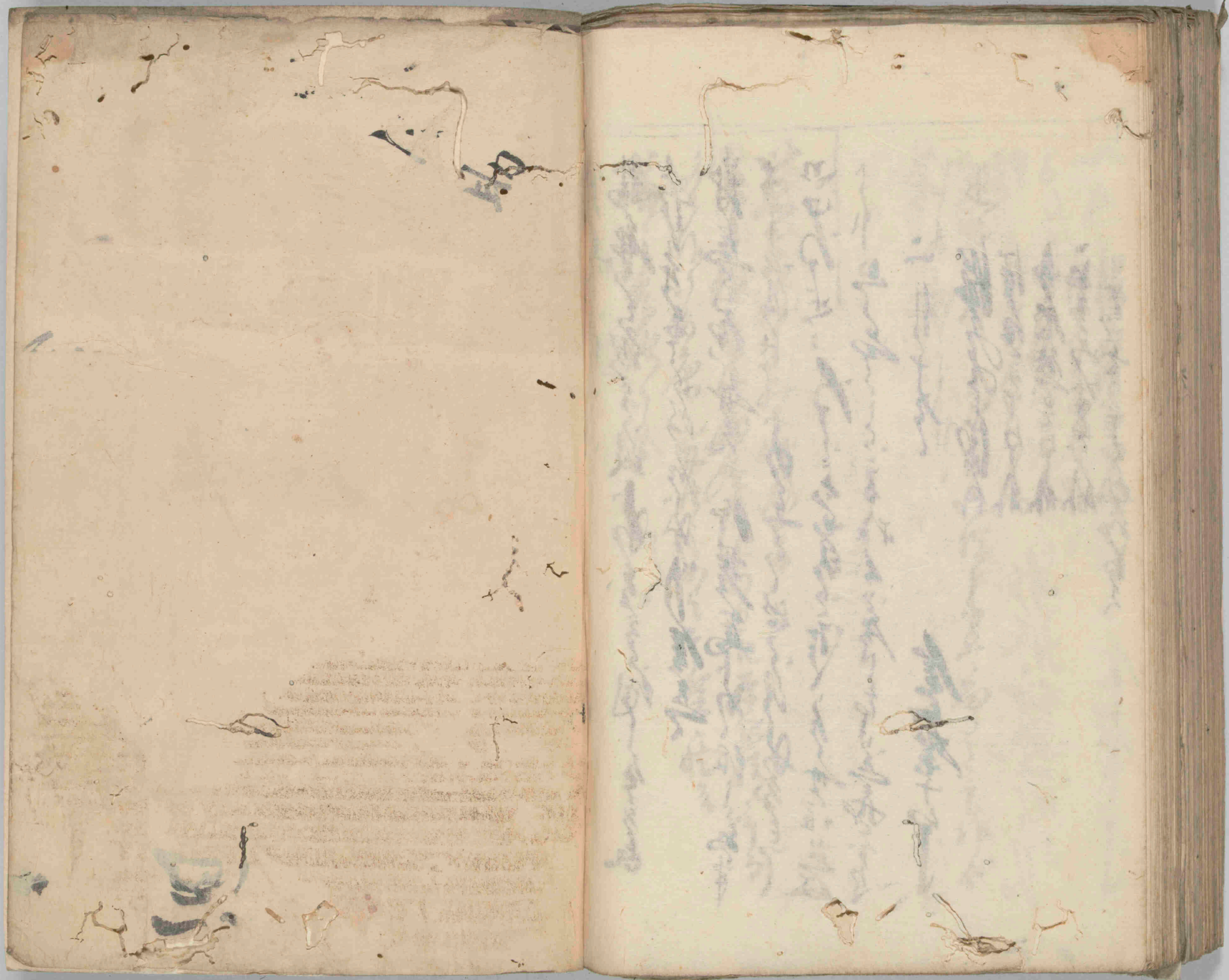
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也

信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也

信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也

信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也
信乃其也

信乃其也



御原
御原
御原

